

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家平岸 ぼぶら		
所在地	札幌市中豊平区平岸5条12丁目1番26号		
自己評価作成日	平成28年5月20日	評価結果市町村受理日	平成28年7月5日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=rue&amp;JigyosyoCd=0170501795-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=rue&amp;JigyosyoCd=0170501795-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年6月20日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送りで理念を確認しあったり、月単位で目標を掲げ達成に向けて取り組んでいる。他に職員一人ひとりにも個人目標を設定し面談時にできているかどうかを定期的に確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	里の家祭りや花いっぱい運動、近くの神社の鐘撞の催しなどにも参加し、できるかぎり交流するようにしている。また、近くのご家族にも行事などの際には参加を促し地域との繋がりを重要視している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に出たときなどは車椅子や手引き歩行など普段と同じように支援を行い地域の方々を理解できるようなきっかけを作っている。まだ課題な部分なので町内会と連携して理解に努めていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では包括職員だけでなく近隣の事業所やご家族、職員も交えながら意見を出し合いサービス向上に向けて取り組んでいる。以前より参加人数も定着してきており内容の濃い会議になっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	基本的に管理者が連携を取り合い関係を築いている。研修や感染症対策のメールなど定期的にきている。なお、生活保護の方がいるので保護課の方が面談に来たときは馴染みの関係を作るように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車通りの多い場所なので事故防止のため、やむを得ず電子錠の形をとっているが、外に出たいとき、他の階に遊びに行きたいなどの要望があれば随時対応している。事故のリスクと利用者のニーズを踏まえ施錠しない工夫をこれからの課題としていきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しては職員全員が周知日頃のケアに問題がないか常に意識しあい心掛けている。言葉掛けについても強い口調になっていないか？尊厳を大事にしているか？など会議などで確認しあい日々努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用している方がいないため全職員が理解しているわけではない。利用する方や活用したほうが良いと思われる方がいれば随時内部研修などで学ぶ機会を作っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者が時間をかけて丁寧に説明している。また契約前の面談の際でも利用者やご家族に対して何か不安な点や質問などないか聞き取りし安心、納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者以外に計画作成者や職員も随時受け付けている。気軽に言えない内容等については相談箱を設置し意見を出しやすいように工夫している。苦情については合同会議で議論し迅速に対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の仕事の中や毎月行っているユニット会議の中で職員の意見を聞き取りしている。より良い職場にするために管理者や本部は必要と思われるものに関しては、会議などを通して日々対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の事情を勘案し勤務形態は柔軟に作成している。また残業がないように業務の内容など工夫し時間通りに帰ることができるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談を行い日々のケアの取り組み方はどうか？不満や思っていることなどないか？など把握に努めている。学ぶ機会については月に一度内部研修を開き勉強会をしている。外部研修についても受けられるよう本部の協力体制もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業所と相互に見学したり離設時の連携を取り合う体制作りなど同業者との交流機会を管理者が努めて行っている。合同会議でも各ホームの管理者や計画作成者との交流を行いながらサービス向上に向けて刺激あっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や心配、警戒心も強い状態に陥りやすいため面談時から困っていることや心配事を聞き取り、安心できる関係作りに努めている。入居時は特に関わりを重視しまずは安心感を持って頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本的に利用者と同様に聞き取りしているが、職員と共にセンター方式の作成等にも協力をさせていただきながら課題等を共有し信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当に必要としている支援を見極め本人、ご家族の理解と納得のもとで支援するよう心掛けている。また、満床時で緊急性を伴うと判断した場合は他の事業所への紹介を行うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で、一緒にテレビを見たり、ソファーに座り昔の話を聞いたり、本人の体調に合わせ軽作業等と一緒に取り組むことで、教え合う、支え合う関係が築かれている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、面会に来られるご家族と利用者との間に入って家族の思いを利用者に伝えたり、家族と職員が一對となって支えていることを理解していただけるよう努めている。行事なども参加を促す機会を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体の状態や認知症の進行度に関わらず、馴染みの場所に出掛けたり、馴染みの人との面会を推進したりしながら関係性が途切れないための支援をしている。友人や知人の面会も多い。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当ユニットに他の階で夫婦で入られている方が2組いるので常に他階との交流がある。また入居者同士が協力し合える場面を作ったり、他階の行事などに参加し色々な方と仲良く過ごせるようきっかけ作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も施設、病院等に面会をすることで本人、ご家族等との関係が切れることはなく、相談を求めてくるケースもある。職員の顔を覚えていて声を掛けてくる方も多く、年賀状のやりとりもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「望みはないか」「して欲しい事はないか」と常に気を配るようにしている。重度になり訴えの少ない方には反応やしぐさなどから望みを見極め対応するように心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族からの聞き取り、もしくはセンター方式のAシート、Bシートをお渡しし一部分記入して頂くなど、これまでの生活歴を把握する努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方を把握した上で自立に向けた支援が行える様にしている。今まで有していた力の変化を見極め対応の変更を行う等日々の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの意向を把握した上で、職員の意見や主治医から情報をまとめ3ヶ月毎にケアプランを作成している。モニタリングは日々のカンファレンス以外にユニット会議で意見やアイデアを反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日がモニタリングという意識を持ち、ケアプランの実践に対する記録や気づきの全てを経過記録に記入しており、情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な要望や意見が言える雰囲気作りを第一に考え、柔軟な支援を心掛けている。既存にないサービスについては必要に応じて各分野のアドバイスを基にホームで行える範囲で行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職業体験、一般ボランティアの受け入れを行っている。また、訪問の看護師や皮膚科、歯科、整骨院、美容師など多岐にわたって地域資源の活用に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族からの要望を大切に、かかりつけ医への受診支援を2週に一度のペースで行っている。また皮膚科や歯科、看護師による健康管理は週に一度のペースで行うなど医療機関との連携は密にとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの訪問看護師に相談し、いろいろなアドバイスを頂くようにしている。職員についても医療面の知識を日々学びながら重篤になる前に早期の対応ができるよう努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリー(看護サマリー)や、かかりつけ医からの紹介状も迅速に提供し、情報提供に努めている。ご家族と連絡を取りながらお見舞いに伺い相談に応じている。早期退院の調整を図りつつ、退院時の受け入れ体制も整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた支援マニュアルを作成しており、契約時の段階から事業所の方針や事業所の出来ることを、本人、ご家族に説明し、早い段階から話し合い、その意向、方針を共有している。去年は当ユニットで1件、看取りをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時ファイルを作成している。処置だけでなく発生時の流れや連絡先など対応できるよう勉強会等で話し合いを行っている。ただ全職員が同じようにできるとは言い難い。今後も努力していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した訓練を地域住民参加のもと定期的実施している。避難場所など具体的な内容について十分話し合い、連携の強化を図っている。防火点検チェック表もあり対応策の検討をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格や行動を理解するように努め、適した声掛けや対応を行うように努めている。羞恥心やプライバシーにも配慮するように日々気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と話して希望を聞き納得して決める事を大切にしている。自己決定できない方には、分かりやすい表現での説明やいくつかの選択により意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、気分や体調等に配慮しながら、利用者の希望を第一に考え、その生活のペースを乱したり、押しつけにならないようできる限り個性を重視した支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ服を着ることがないように、行事や天候に合わせた衣装を選んで頂くよう心掛けている。男性も髭剃りや眉毛など気になった時点でカットするよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に配慮し、栄養バランスを考えた献立となっている。本人の食べる意欲を大切にしながら、原則、自力でゆっくりと食事ができる支援に努めている。後片付けもできる人は一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や疾患に合わせた栄養バランスや水分摂取量に配慮している。摂取量は詳細に記録するようにしている。また嚥下機能に障害がある方も多いのでトロミや刻みなど形態も個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けと介助により利用者全員が口腔ケアを行っており、口腔内の清潔は保持されている。上手にうがいできない方は口腔ケア用のウェットティッシュで対応し清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目指し、利用者一人一人の排泄リズムを把握している。認知症の進行に伴い排泄そのものやトイレの場所がわからなくなっている入居者については、声掛けし誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、適度な運動、食物繊維の摂取状況等を利用者一人一人の状態に合わせて検討し、便秘予防に取り組んでいる。排泄チェックシートに詳細な記録をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず柔軟に対応している。季節によっては足浴やシャワー浴を取り入れている。希望によっては入浴の順を考慮したり、仲の良い方と一緒に入るようにしてなるべくゆっくりと入浴して頂けるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調等を考慮し、居室で休んでいただく時間も大切にしている。不眠傾向の方は現在いないが、出た場合は入浴の回数を調整したり足浴を行うなど薬に頼らない支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量については、全職員が学習に取り組んでいる。服用時は見守りや一部介助を必ず行っている。変更時には都度説明したり、申し送りノートに記載し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者、ご家族からの情報をもとに生活歴から趣味、嗜好品までの把握をしており、利用者の意欲や希望、現在の力量に合わせて、楽しみごとの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩の他、外食や行事など戸外に出掛ける機会を出来るだけ多くしている。またご家族との団欒を大切にするために共に出掛ける行事を企画している。今までに重度の方でも生まれ故郷の厚田に出掛けたり、夫婦でお墓参りに行くなど実現している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、ご家族ともよく話し合いながら力量に応じて可能な方がいれば買い物ときなど使えるように対応する。金銭に関してはトラブルに繋がる恐れも大きいので、基本的にはホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度の方が多いため現在は手紙のやりとりはないが、電話は希望に応じていつでも対応をしている。手紙に関しても行事で七夕や年賀状作成など対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はゆったりとしたスペースをとり、車椅子での移動がスムーズにできる。行事や日常生活の写真は毎月差し替え回想の刺激に繋げたり、季節感を味わって頂くよう努めている。他には音に敏感な方が多いのでテレビの音量や声掛けに気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前以外にもさまざまな場所にソファを配置しており一人にもなれ、利用者同士の複数にもなれる工夫をしている。好きな場所でゆっくりと過ごすことができるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具等を持ち込みベッドやタンスの向きなど、できるかぎり以前と同じような配置になるよう工夫している。またご家族の写真やホームで撮った写真を飾るなど居心地良く生活できる場を提供できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人らしい生活を尊重し「できること」や「わかること」については、状態を把握した上で力を引き出せるよう努めている。残存能力を低下させないためにも自立した生活が送れるよう日々努力している。		